

GUIDEBOOK

The Hokkaido University Museum

MUSEUM MEISTER

北海道大学総合博物館

ミュージアムマイスター

認定コースのご案内



MUSEUM MEISTER
— HOKKAIDO UNIVERSITY —

www.museum.hokudai.ac.jp



2021年度

INDEX

- 01 多様に専門化された時代にこそ求められるミュージアムマイスター
- 02 ミュージアムマイスター認定コースの概要
- 03 開講科目一覧
- 04 開講科目の紹介
- 06 特集「マイスターに聞いてみよう！」
- 08 登録申し込みについて

多様に専門化された時代にこそ求められるミュージアムマイスター

皆さんは、北海道大学の学生として、専門分野について深く学ぶことを目指し、旺盛な好奇心を持ち、努力を積み重ねながら日々を送っていると思います。総合大学である本学では、様々な分野の先進的な研究・教育が行われており、次世代を担う皆さんの期待にこたえる専門教育の場ができています。

一方で、北海道大学が、建学以来掲げてきた理念のひとつに「全人教育」があります。総合博物館は、学科や学部垣根を超えて、広い分野を学ぶことができる本学の恵まれた環境を最大限に活用した「全人教育」を実践したいと考えました。「博物館を舞台とした体験型教育」プログラムを設定し、広い分野の知識を講義や実習で習得するだけでなく、博物館が主催する課外演習や活動を通じて実践的に学ぶコースとしてつくられたのが、「ミュージアムマイスター」認定コースです。

本コースでは、一定水準をクリアした学生を「ミュージアムマイスター」として認定します。しかし、平成21年度から始まったこのプログラムで、誕生したマイスターはまだ41名です。これは、この称号がいかにより選ばれた人材に与えられるものであるかを示しています。本コースで我々が重視するのは、単に知識だけではなく、現代社会において必要とされる「社会貢献のための高い見識と情熱」、「人間社会の持続的発展のために貢献できる知恵」を持つ人材の育成なのです。これは、まさに、北海道大学が目指す「全人教育」の完成形であるといえるでしょう。皆さんもマイスターを目指して、より充実した学生生活を過ごしてみませんか。

2021年4月



北海道大学総合博物館長
小澤 丈夫



ミュージアムマイスター 認定コースの概要

「ミュージアムマイスター認定コース」とは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を持ち、自己評価の視点を身に付けた北大生を認定する教育システムです。シラバスの中から、北大総合博物館が認定した科目を履修し、さらに、博物館が主催するプロジェクトや講座に参加して、必要なクレジット数を取得し、一定基準の成績を修め、プレゼンテーションを含む面談をクリアした学生を、北大総合博物館長が「ミュージアムマイスター」として認定します。北海道大学の全学部・全大学院の学生が受講可能です。

● 受講方法

下記の通り科目種別(A~D)の手続きに従って、受講申請を行ってください。大学院生が学芸員養成課程関連科目以外のABの科目を聴講希望する場合は、まず、ミュージアムマイスター事務局にお問い合わせください。

A 全学教育科目 (総合科目、一般教育演習、主題別科目)

高等教育推進機構・教務課に、指定の期日までに履修届を提出してください。

B 学部専門科目

他学部学生が履修する場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する旨をご連絡ください。(履修は所定の申請を行えば認められますが、卒業認定に関わるかは学部によって異なります。マイスターコースのクレジットは取得することができます。)

C 大学院専門科目・大学院共通授業科目

学部学生も3年生以上は履修可能です。その場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する希望を伝え、了承を得て、ミュージアムマイスター事務局にご連絡ください。(マイスターコースのクレジットは取得できませんが、学部学生は単位を取得できないため、履修届を提出する必要はありません。)

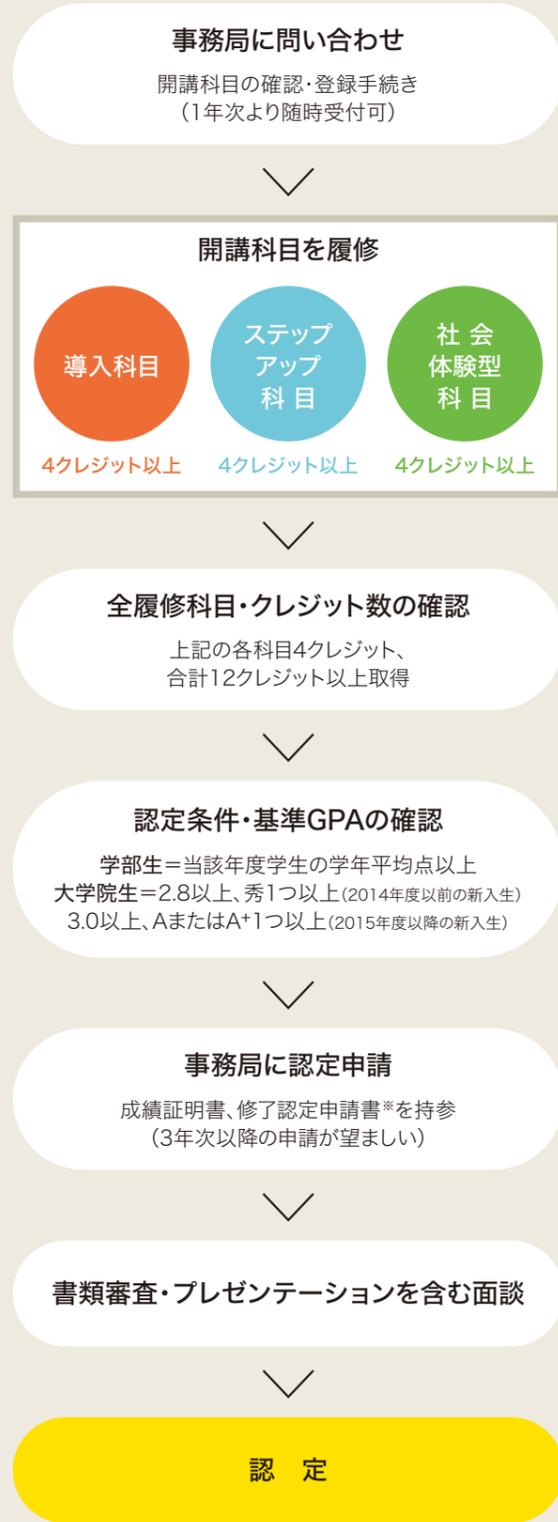
D オフカリキュラム・プログラム

通常の授業枠を超えて博物館が独自に開講するプログラムです。内容は、企画展の展示解説やセミナー運営など様々です。受講生は自分の空き時間を利用してプログラムに参加します。博物館独自のプログラムであるため、関連情報はシラバスには掲載されていません。卒業認定に関わる単位は取得できませんが、マイスターコースのクレジットは取得できます。受講生募集は、博物館ウェブサイトや構内ポスターで前期・後期に各1回行います。今後の予定などはミュージアムマイスター事務局までお問い合わせください。

◎クレジットについて

クレジットはミュージアムマイスター認定コース独自のものです。大学院授業やオフカリキュラムのプロジェクトで認定されるクレジットは、卒業認定に関わる単位とは異なります。また「ミュージアムマイスター認定コース」で必要な科目と「学芸員資格取得」に必要な単位は異なります。

● 認定までの流れ



* 修了認定申請書は「ミュージアムマイスター 修了認定申請書」で検索、もしくはミュージアムマイスター事務局までお越しください。

開講科目一覧

●下記の科目情報は令和3年3月1日現在のものです。変更になる場合もありますので、開講学期・曜日・時間についてはシラバスや各掲示板も必ず確認してください。

科目種別	授業名	開講時期	曜日(時限)	責任教員	クレジット数
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 生物の多様性	1	水曜(5)	柁原 宏	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] フィールド科学への招待	1	金曜(5)	四ツ倉 典滋	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館	1	木曜(5)	阿部 剛史	2
A 全学教育科目(総合科目)	[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在	2	木曜(5)	山崎 幸治	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパスとミュージアム探求	1	金曜(5)	大原 昌宏	2
B 文学部専門科目	博物館概論	1	水曜(1)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館教育論	1	木曜(1)	今村 信隆	2
B 文学部専門科目	博物館資料論	1	金曜(5)	久井 貴世	2
B 文学部専門科目	博物館経営論	2	火曜(5)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館情報・メディア論	1	水曜(5)	久井 貴世	2
B 文学部専門科目	博物館展示論	2	金曜(5)	山崎 幸治	2
B 文学部専門科目	博物館資料保存論	1	火曜(5)	大原 昌宏	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[1]	1	集中	長里 千賀子	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[2]	2	集中	長里 千賀子	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	International Archaeological Field School in Rebun Island	1	集中	加藤 博文	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界	1	月曜(5)	吉崎 元章	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 札幌と音楽文化	2	木曜(5)	三浦 洋	2
B 水産学部専門科目	水圏生物学	春	火曜(3~4)	河合 俊郎	2
B 水産学部専門科目	魚類学	春	月曜(1) 水曜(2)	今村 央	2
B 水産学部専門科目	魚病学	夏	火曜(1) 金曜(3)	笠井 久会	2
B 水産学部専門科目	水族館学	春	木曜(3~4)	田城 文人	2
C 文学院専門科目	博物館・文化財研究特殊講義: 博物館と市民・地域社会 2021	1	火曜(4)	佐々木 亨	2
C 大学院共通授業科目	博物館学特別講義 I: 学術標本・資料学	秋・冬	金曜(5)	山本 順司	2
D 総合博物館・オフカリキュラム	パラタクソノミスト養成講座	—	随時*	—	0.5~1
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価)	1	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 I 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価	春・夏	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(ミュージアムグッズの開発と評価)	2	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価	秋・冬	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 理学院専門科目	理科教育課程マネジメント特論	2	金曜(4)	山田 邦雅	2
D 総合博物館・オフカリキュラム	学生参加プロジェクト(展示制作、展示解説など)	—	随時*	湯浅 万紀子	1~2
D 総合博物館・オフカリキュラム	卒論ポスター発表会	—	2月下旬~ 3月上旬	湯浅 万紀子	2

※ 受講者募集の案内は、北大総合博物館ウェブサイトに掲載されます

導入科目

環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。



全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] 生物の多様性
- ・[環境と人間] フィールド科学への招待
- ・[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館
- ・[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在

全学教育科目(一般教育演習)

- ・北大エコキャンパスとミュージアム探求

文学部専門科目

- ・博物館概論
- ・博物館教育論
- ・博物館資料論
- ・博物館経営論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館展示論
- ・博物館資料保存論

ステップアップ科目

実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。博物館の活動と運営について理解を深める科目。



授業紹介

●水族館学

水族館をめぐる学問分野は非常に広範囲にわたっています。水産学、動物学、水質化学などの自然科学と、博物館学、経営学、教育学などの人文科学を総合的に理解することで、水族館とは何かということを学習します。また、水族館で実際に行っている研究活動や日常の仕事について、水族館の職員になるための過程についても紹介します。

本講義は、実際に水族館で活躍している方々が講師を担当します。今年度は鴨川シーワールド国際海洋生物研究所所長の荒井一利氏、大阪海遊館館長の西田清徳氏、沖縄美ら島財団水族館事業部統括の佐藤圭一氏、おたる水族館海獣飼育課係長の三宅教平氏を予定しています。

水族館職員を目指す学生にとっては、水族館の職員と接する機会ができるまたとないチャンスです。



●博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

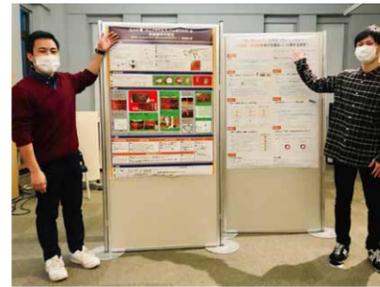
「博物館学特別講義Ⅰ」では各専門分野における標本・資料の意味、取り扱い方を理解します。具体的には、標本・資料の採取・収集法、保管法、利活用技法、データ整理・公開法などについての知識や考え方を習得します。各分野の教員が週替りで講義をするオムニバス形式の授業で、自然史系として1)海藻、2)昆虫、3)昆虫データベース、4)魚類、5)哺乳類・鳥類、6)古生物、7)岩石・鉱物、8)分子系統進化を、文化史系として9)考古学、10)言語学、11)民族学、12)標本史、13)映像・科学技術史を取り扱います。

学芸員資格のアドバンスコースとして位置付けていますが、同時に自然史・文化史を対象とした各研究分野への理解を深め、文理を融合した広い視野を持った教養人としての資質も身につけます。



社会体験型科目

学生が博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。博物館の展示や場を活用したプロジェクトの企画・運営・評価に参加したり、学生の研究成果を市民に向けて発信して意見交換する。



理学院専門科目

- ・博物館コミュニケーション特論 (学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価)
- ・博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)
- ・理科教育課程マネジメント特論

大学院共通授業科目

- ・博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価

総合博物館・オプカリキュラム

- ・学生参加プロジェクト (展示制作、展示解説など)
- ・卒論ポスター発表会

授業紹介

●卒論ポスター発表会

北海道大学を卒業するさまざまな学部4年生が、4年間の研究成果を大きな1枚のポスターにまとめて発表します。学会での発表とは異なり、市民や他分野の学生にも理解できるようなポスターを制作し、わかりやすく説明することが求められます。中間発表会を複数回行い、教員の指導を受け、発表会に臨みます。



参加者の声

◎自分の研究を分かりやすく人に伝える方法を学びたいと思い、卒論ポスター発表会に参加しました。ポスター制作過程では、自分が一年間取り組んできた研究内容を整理し、分かりやすく表現する手法を学ぶことができました。多くの人に研究成果を伝えるには自分自身の研究と改めて向き合う必要がありました。発表会当日は、研究内容よりも研究の意義について多く聞かれました。来館者との対話を通して、なぜこの研究に取り組んだのか、自分なりの答えを持っていなければならないことを痛感しました。発表会に参加したことで、研究発表の手法を学べただけでなく自分の研究の意味について考えることができ、参加して良かったと思います。

◎自分の研究内容をより多くの人に理解していただきたいと思い、卒論ポスター発表会に参加しました。三回の中間発表会では、博物館の教職員の方々から指導や助言をいただき、同じ発表者同士では相互にフィードバックを行うことで、なんとかポスターを完成させることができました。当日は、来場者と対話していくことで、自身の研究内容の要点を再認識することができ、良い機会となりました。また、来場者から研究に関連して自分の知らない昔の情報を教えていただくこともあり、非常に参考になりました。

●学生参加プロジェクト

市民に向けた大学博物館関連プロジェクトの企画・制作・運営・評価などに参加します。学生だけではなく、博物館教職員やボランティアと協働することで、コミュニケーション能力やマネジメント能力を養うことを目的としています。授業や普段の学生生活では味わうことのできない、貴重な社会体験の場です。

過去のプロジェクト：企画展展示解説/卒論ポスター発表会の運営 他多数



受講者の声

「卒論ポスター発表会」の運営

◎大学の研究と社会との間をいかに橋渡しできるのかという興味から、卒論ポスター発表会の運営に参加しました。リーフレットやポスターの作成を通して、受け手の立場に立った情報提示の重要性を感じました。様々な研究の世界を垣間見るのは楽しく、視野も広がりました。自分の研究に自信を持ち、熱心に丁寧に説明する先輩方の姿に感動しました。私を取り囲む基礎研究や純粋な好奇心から生まれる研究にも意義があることを伝えられるようになりたいです。

◎発表会では、会を滞りなく進めるために運営スタッフが自発的に動くことの重要性を痛感しました。「専門性が高くて難しい」と感じている来場者を、興味を持っていただけそうな発表者のもとへ誘導するには、運営スタッフが広報を担当するだけでなく中間発表会に参加して発表内容を把握していたからこそできることであり、来場者を迎える姿勢のひとつであるように思えました。

卒業生
マイスターからの
message



和久井 彬実

公益財団法人花と緑の銀行
中央植物園部 栽培展示課
2017年度 環境科学院 修士1年次に
マイスターに認定



現在の仕事と、いま考えるミュージアムマイスターコースの意義
2020年4月から富山県中央植物園に勤務しています。職名は技師ですが、職務はほぼ学芸員であり、園内の植物管理やイベント運営、植物に関わる調査・研究などが主な仕事です。植物園では、日本や世界各地の植物を展示している他に、定期的に植物と触れ合うイベントを開催したり、植物に関わるテーマの特別展示を行ったりしています。私も昨年の9月に、特別展示のパネルを数枚担当する機会がありました。図の配置や配色、言葉遣いなど、どのようにしたら来園者の方々に植物の面白さが伝わるか、学部4年生の時に取り組んだマイスターコースの「卒論ポスター発表会」での経験がとても役に立ちました。

博物館での活動の思い出

最も印象に残っているのは、「卒論ポスター発表会」です。卒業研究の内容をこの分野のことを全く知らない市民の方々に伝えるために、どのような言葉を使ったら良いか、どのようなイラストがあればわかりやすいか、先生方にアドバイスをいただきながら工夫して準備しました。来館者の方に、「なるほど!」「面白い!」と言ってくれた時の嬉しさは今も忘れることができません。また、特別展示「ランの王国」、「古生物学の巨人たち」では、植物学に加え、専門分野ではない古生物学の展示解説にも挑戦しました。相手に伝える解説をするには、まず自分が展示の内容に興味を持つこと、自分なりに楽しい、面白いと感じたことを素直に伝えることが重要なだと気付きました。

在校生へのメッセージ

私はもともと学芸員になりたくてマイスターコースに登録し、結果として夢だった植物園に就職することができました。しかし、学芸員を目指す人でなくても、マイスターコースから得られるものはたくさんあると思います。私はこのコースを通して、自分の好きなこと・興味のあることをどう表現すれば相手に伝わるか、相手は何に興味があって、どうしたらより関心をもってもらえるか、普段から意識するようになりました。博物館での学び、出会いは、学生生活や研究生活をより楽しいものにしてくれます。皆さんも少しでも興味をもったら、このコースにぜひチャレンジしてみてください。



新
マイスターからの
message



川名 桃子
2018年度
薬学部5年次に
マイスターに認定

学部2年時、様々な分野の専門家が集う大学で所属学部の専門知識しか学ばないのは勿体無いのではないかと感じていた時期に受講した文学部の授業でミュージアムマイスターコースを知りました。博物館という大学の智の歴史が保存された場所で実践的に大学研究について学び、学内外の人々と共有することができるプログラムに魅力を感じて、マイスター認定の取得を目指すようになりました。本プログラムの中で特に印象に残っている講座は「企画展の展示解説」です。解説員として出会った様々な背景を持つ人々との対話は、常に新しい発見や刺激に満ちており、私自身の考え方を成長させる良い機会となったと感じています。このパンフレットを読んでいるあなたもマイスターコースに参加して学内外の人と人を繋ぐ架け橋になってみませんか?

きっとこの冊子を手にとった多くの方と同じく、私は博物館が好きでミュージアムマイスターコースに出会いました。博物館の表舞台から裏側までを広く実践的に学ぶことができた中で、特に印象深かったのはイベントの企画運営を行う授業です。学生でも参加者にとっては博物館の「顔」であり、一過性のイベントでも博物館の役割を意識することが求められました。テーマの掘り下げから目標設定、達成度評価まで一連の責任を担ったことは、発信者としての重要な経験となりました。普段、大学では各々の専門を深めていく学びが多く、多様な主体にふれるアウトリーチの機会は限られています。単に好きだったからではなく、博物館が学術と社会の橋渡しを担う存在だからこそ、受講してよかったと感じています。大学に博物館がある絶好の機会を活用していただければと思います。

谷口 加奈子

2019年度
理学院 修士1年次に
マイスターに認定

ミュージアムマイスターコースの強みは、博物館を取り巻く様々な方と関わりながら、博物館に関連した活動の企画・運営を実践的に経験できることです。例えば、ミュージアムグッズを開発する授業では、初めに携った企画は頓挫しましたが、新たな企画で関連分野の先生方やショップのご協力のもと商品化までこぎつけ、その時の嬉しさはひとしおでした。「学生参加プロジェクト」では、市民ボランティアと協働し、互いの異なる状況を尊重しながらイベントを企画・実施するプロセスを経験できました。本コースの受講を通して、普段見られない博物館の裏側を体験でき、博物館というキーワードでつながる学生・市民・スタッフ・先生方と出逢えたことは私にとって大きな刺激となりました。大学でなかなかできない学びを得たい方に、ぜひ受講をお勧めします。

野瀬 紹末

2019年度
文学院 修士2年次に
マイスターに認定

松田 真莉子

2019年度
文学院 博士3年次に
マイスターに認定

私は美術大学の修士課程在学中に学芸員に関心を抱きましたが、短期間での資格取得が困難だったため一度断念しました。その後北海道大学大学院の博士課程へ進学し、研究と並行して学芸員課程を履修するとともに、少しでも多く実践的な経験を積むことができるようミュージアムマイスターコースの受講を決めました。このコースでは幅広い科目が開講されており、領域横断的な学びが得られるという点に大きな魅力があります。特にミュージアムグッズの開発や卒論ポスター発表会の運営といった社会体験型科目を通して、専門分野の異なる学生や市民の方々と交流しながら責任が伴う体験をさせていただけたことが、今後の自信にもつながったと感じています。私にとって多角的な視野を養う貴重な機会となったこのコースを皆さんにもぜひお勧めしたいです。



